

村

二年 7
 筆順
 オン ソン
 フン ムラ

成り立ち



もとの字は「邨」という字で、「ひとのすむ」むらや「まち」のいみの「邨」(邑のへんかしたかたち)と、「どまら」といういみの「屯」とをくみあわせた字で、「ひとの」とどまり「すむ」むらをあらわしたものです。いまの字は、「邨」とおなじ音の「寸」と「木」とをくみあわせてつくった「りやく字」です。「すんでいるひとよりも」木」のほうがおおい「いなかのむら」をあらわしたものです。

「むら」とは「ひとが」むらがる「ところ」といういみのことばです。「むれ(群)」ともおなじけいというのことばです。

使い方

▽むかしは「村」からとなりの村へあるいていきましたが、いまではあるいていく人はひとりもいません。
 ▽この「村」の「村長」さんは、「村民」のいけんをよくきくりつばなかたです。

熟語例

- ▽村里(いなかの、いへのあつまっているところ。里は「人のすむところ」といういみのことばです。)
- ▽村人(村にすんでいる人。「村民」ともいいます。)
- ▽農村(農業をしてせいかつしている人のおおい村のことばをいいます。)
- ▽山村(山の中の村。)
- ▽漁村(漁業をしてせいかつしている人のおおくすんでいる村のこと。)
- ▽水村(かわやうみなどの水べにある村のこと。)
- ▽寒村(「寒々しい村」といういみで、「さびれた、まじしい村」のことをいいます。)
- ▽村夫子(夫子は「先生」のいみ。「村の先生」ということばです。)

大

二年 3
 筆順
 オン
 フン おお・おおい

成り立ち



人がりようてとりようあしを「おおきく」ひろげた私たちの字で、「おおきい」といういみをあらわしたものです。

「おおきい」といういみから、「おおい」「ゆたか」「ちからがつよい」「たいせつ」「りっぱ」などのいみにもつかわれています。

また、「たいどがおおきい」「いばる」といういみ、また、「ぜんたいでぎ」といういみにもつかわれます。

使い方

- ▽大地(たつて大空をおおぐと、よのわずらわしさはしぜんときえてしまいます。)
- ▽大敵(おせぐという大役をひきうけました。)

熟語例

- ▽大地(ひろく大きな土地。)
- ▽大空(ひろく大きな空。)
- ▽大敵(ちからのつよい敵。)
- ▽大役(たいせつな役。)
- ▽大人(りっぱな人。また、おとなのこと。)
- ▽大勢(ぜんたいできな勢い。よのなかをぜんたいできにみたときのなりゆき。)
- ▽大勢(多くの人。大人ずう。「タイセイ」ともよみます。「タイセイ」とよむと、このまえのこうのようにいみがまったくちがいますのでちゆうい)

特別な使い方

▽大和(和はわかくにのなまえ。「やまと」はみやこのあつたまちなまえで、わかくにのなまえとしてもつかわれました。それで、「和」を「やまと」ともよむようになったものです。「大」はりっぱのいみ)